

●原子力人材育成ネットワーク報告会

平成29年2月13日（月）イイノホール（東京都千代田区）にて、平成28年度「原子力人材育成ネットワーク」報告会を開催しました。海外からはトルコ、マレーシア及びポーランドから参加があり、日本の産官学の各界からと併せて65名の参加がありました。岡原子力委員長をはじめとして各セッションとも情報共有はもとより、人材育成活動をよりよいものとするための工夫や今後の課題、取組の方針について紹介があり、有意義な報告会となりました。

ネットワーク事務局の活動と5つの分科会（高等教育、国内人材国際化、初等中等教育支援、実務段階、海外人材育成）における特徴のある活動の共有、関係府省の原子力人材育成活動/政策の紹介及び海外の人材育成の状況と日本に求められる人材育成活動等の発表がありました。当日の発表資料は、<http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/backno03.php#f>に掲載しています。

●合同企業説明会『PAI 原子力産業セミナー2018』（Presentations by Atomic Industry）を開催

日本原子力産業協会と関西原子力懇談会は、2018年3月卒業の高専生・大学生・大学院生・高専生を主な対象に、3月4日に東京・秋葉原（AKIBA SQUARE）で、11日に大阪・梅田（梅田スカイビル・アウラホール）で原子力産業に特化した合同企業説明会「PAI 原子力産業セミナー2018」を開催しました。

採用活動ブースの出展数は、59ブース（東京：36ブース、大阪：23ブース）でした。2012年度以降、出展ブース数は増加傾向にあり、原子力関係企業の人材への採用ニーズの高さを示していると考えられます。

当日来場した学生は、両会場合わせて442名（東京：304名、大阪：138名）で昨年度（337名）より大幅に増加しました。来場学生の学科別では、原子力工学系44%、文系16%、電気・電子系13%、機械系8%、数学・物理系7%、化学系6%、土木系1%、その他理系6%となっています。昨年度に比べて、原子力・エネルギー系の学生の来場学生は大幅増、他の工学系学科も増加しました。一方、文系は大幅に増加し、来場学生の2位を占めました。文系が2位になったのは2011年度以来のことで、原子力産業の人気度を示すバロメーターとして注目しています。

本セミナーは、日頃原子力にあまり接することのない原子力工学以外の学生も、各企業から業務内容を詳しく聞く事が出来る機会となっており、学生へ原子力業界の魅力をアピールする場ともなっています。

●学生対象施設見学会

今年度第二回施設見学会は、国際廃炉研究開発機構（IRID）協力の下、「廃炉」をテーマの1つとして実施しました。関東地区では17名、関西地区では24名の参加がありました。

*実施日、見学先

・関東 平成29年3月17日(金)

午前 原子力機構 檜葉遠隔技術開発センター

試験体モックアップ、遠隔操作ロボット、VR（バーチャルリアリティ）システム

午後 日立製作所 臨海工場

廃炉への取組み説明、大型製缶工場（圧力容器部品）、廃炉関連ロボット

・関西 平成29年3月24日(金)

午前 三菱重工業 神戸造船所本工場

廃炉への取組み説明、廃炉関連ロボット・マニピュレータ、訓練シミュレータ

午後 理化学研究所播磨

大型放射光施設（SPring-8）、X線自由電子レーザー施設（SACLA）

メディアを通じた情報ではなく、実際の現場で働く人の生の声を聞くことにより、より深い理解が得られた、動いている機械・装置を直に見て感動した等の意見がありました。また、工場・施設の規模にも圧倒され、今後の進路を決定する上で大変有意義な経験となったようです。

●第2回ネットワーク運営委員会

平成29年3月24日（金）原産協会（東京都千代田区）にて、平成28年度第2回運営委員会を開催しました。今年度の総まとめとなる本委員会では、ネットワーク事務局及び5つの分科会の今年度の活動報告並びに10年後のあるべき姿を実現するために提案された戦略ロードマップに記載のある取り組むべき事項への取組み状況を報告するとともに、関係府省の原子力人材育成活動/政策の紹介、原産セミナー2018の報告等がなされました。